

## 2020年度

### IGS 国際セミナーシリーズ(生殖領域)を開催にするにあたって

2020年は新型コロナウイルスの感染が世界に拡大し、3月から日本でも感染者数が首都圏を中心に増加しはじめた。こうした状況を受け、自分たちの研究機関もそして各研究者も学会や研究調査で渡航することも、外国の研究者を招聘することもできなくなってしまった。授業やさまざまな学術イベントも、対面で行うことが難しくなり、さまざまな研究交流もオンラインを中心に実施することを余儀なくされることになった。

このような中でも、私たちは研究活動や国際間の学術交流を継続していかなければならない。そこで、例年であれば、国内外から研究者をお茶の水女子大学に招き、大学キャンパス内で開催している IGS (Institute for Gender Studies—ジェンダー研究所) セミナーを、2020年度は、Zoom Webinar を使用したオンラインでの実施に切り替えることになった。せっかく、オンラインで開催するのであれば、時差はあるものの、通常なら招聘がむずかしい国外の研究者たちになるべく登壇してもらおうと、生殖領域のセミナーでは、主に外国の研究者に協力を得て3回シリーズでIGS国際セミナーを開催した。2020年度に生殖領域の IGS セミナーに招いたのは、近年関心の高い生殖関連の問題をとりあげた論文を発表したり、学会等で報告をしている国際的な研究者たちである。

第1回目は7月16日に、National Taiwan University の Chia-Ling Wu 氏を招いて開催し、日本・台湾・韓国の生殖補助技術の臨床データの収集目的やそのデータの扱われ方の違いについてご紹介いただき、フェミニストの視点からケアのインフラとしての臨床データのあるべき姿についてご講演いただいた。セミナーの中では、明治学院大学の柘植あづみ氏にもコメントをいただき、Wu 氏の共同研究者でもある国立韓国近代歴史博物館の研究者および学芸員の June-Ok Ha 氏にもディスカッションの際に飛び入り参加していただいた。

第2回目は9月9日に、オーストラリアのヴィクトリア州にある Swinburne University of Technology の Deborah Dempsey 氏を招いて、オーストラリアリサーチカウンシルから研究助成を受け、現在すすめられている研究プロジェクト「ドナーリンクによる家族についての研究」の調査の途中結果をご報告いただいた。ヴィクトリア州の提供精子で生まれた人やその家族の中には、ドナーや同じドナーから生まれた人を探そうとする人が増えてきているという。Dempsey 氏はヴィクトリア州の提供精子・卵子を使った生殖補助技術にかかわったドナーやレシピエント、そしてこうした医療技術から生まれた人々に関する登録データベースを使ったドナーリンクモデルの実例を紹介し、彼らがこうした情報を求める理由や、情報提供することで彼らを支援することの長所と課題にも言及された。

第3回目は日本の11月21日(ハワイ時間の11月20日)に、University of Hawai'i at Mānoa の Maura Stephens-Chu 氏と、湘南鎌倉医療大学の森明子氏を招いて、「月経教育と女性の生涯の健康」をテーマにセミナーを開催した。Stephens-Chu 氏にはフェミニスト医療人

類学の視点から、また森氏には医療専門職の視点から、月経教育に着目して、それぞれの研究をベースに、それが女性の生涯の健康にどのような影響を与えるかについて報告された。多くの女性が長い年月にわたって経験する生理現象をめぐる問題への関心は大きく、多くの方が参加され、その中には生理用品会社の関係者の人もいた。

お茶の水女子大学の中でも先陣をきって実施したオンラインでの国際セミナーであり、最初は慣れない点も多くあったが、ジェンダー研究所のスタッフたちの助けや協力のもと滞りなく開催することができたことをうれしく思う。そしてオンラインということもあって、国内のみならず、国外からも多くの方にご参加いただき、非常に活発な討論ができたことに満足している。すべての回を盛況のうちに終え、セミナー開催後もこのセミナーの参加者や、セミナーには参加できなかったがセミナーの内容に関心を持ってくださった多くの研究者や一般の方から連絡を受けた。どの会も貴重な内容であったため、さらに多くの方たちとあらためてこの3回のセミナーの内容を共有できるようにとまとめたのがこの報告書である。皆様の研究や活動の中で、何かの形でこの報告書を活用していただければ幸いである。

新型コロナウイルスの終息の見込みは2021年を迎えた今も不透明であり、今後もしばらくの間は対面でのイベントの実施は難しいかもしれない。しかし、オンラインでの実施は国外の研究者を招く上でのハードルを下げ、参加者も日本国内だけでなく国外からの参加をも可能にするなど、その利点も多くあることがわかった。いずれ新型コロナウイルスの問題が終息し、対面でのセミナーや研究報告会が再開されるようになって、時にはこうしたオンラインでのイベントを開催し、居住または就業している地域にかかわらず多くの専門家や一般の方たちにご参加いただき、さまざまな問題を議論していければと思う。そして、そうした問題に対する適切な取り組みを多くの方々と一緒に探っていく中で、私たち自身も多くのことを学んでいければと心から思う。

2021年3月

IGS 国際オンラインセミナー(生殖領域)企画および報告書編集作成責任者

お茶の水女子大学ジェンダー研究所 特任リサーチフェロー

仙波由加里